

# 第1学年 算数科学習指導案

児童 1年3組 男子20名 女子19名 計39名  
指導者 小田島 公枝 後藤五月(すこやかサポート)

1 単元名 「たしざん」(くりあがりのあるたしざん) 11時間

## 2 単元について

### (1) 教材について

第1学年の目標は、「加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。」ことである。

本単元では、1位数に1位数をたして繰り上がりのある計算のしかたを学習していく。

ここで扱う計算は、被加数、加数ともに1位数であるが、繰り上がることを「10といくつ」ととらえるところが要点となる。そこで、10に対する補数がつくりやすいように、被加数が9、8、7の場合から導入している。次に、被加数を分解して10の補数をつくり計算していく方法を学習していく。また、今までに学習した加法の意味理解を深め、繰り上がりのある計算になる場合にまで拡張していく。

### (2) 児童の実態

これまでに、「いくつといくつ」「あわせていくつ」や「のこりはいくつ」の学習では、ブロックを使いながら、学習をすすめてきた。一つずつ動かすのではなく、10のケースを使いながら、まとめてブロックを動かして、数をおくように練習してきた。また、「10よりおおきかず」では、2本のブロックを使い10といくつをおかせたり、ブロック図に表したりすることにも触れさせてきた。多くの子どもたちが、素早くブロック操作ができるようになっているが、まだ、一つずつ数えないと数をブロックでおけない子が数名いる。

算数の学習に対しては、好きと答える子が多く、進んで計算練習に取り組み、数の大小、崇敬列、構成、たし算・ひき算など、学習内容は概ね理解している。文章題を読み違えて計算してしまう児童がいるが、その数は少ない。

レディネステストの結果では、全員が $9 + 3$ の答えを出すことができていた。ただ、既習の数の分解の問題でつまずく児童もみられたため、10までの数の構成と分解について、復習し直し、定着させていきたい。

### (3) 指導に当たって

10のまとまりを意識できるよう、初めの段階では、ブロックケースを使いながらブロック操作をさせていく。また、やり方になれてきたら数の分解図(さくらんぼ図)をかいたり、計算の方法を言葉で話したり、文に書いてみたりしながら、いろいろな方法で答えを出させていきたい。

練習の時間には、それぞれのスピードに応じて時間いっぱいに取り組んでいけるよう何種類かのプリントを工夫し、楽しく計算に取り組ませていきたい。また、早く終わった子には、発展問題にも取り組ませていきたい。

毎時、サポート教諭が入り、TT指導をすすめていく。一斉指導の場では、個別指導を要する児童の支援をし、練習の場面では、机間指導の役割分担をしながら、一人一人の子に目を向けていけるようにしていきたい。また、かあどれんしゅうの第4時では、習熟発展の時間としてサポート教諭が二人入り、いろいろな学習の場を設定し、「さんすうゲーム大かい」に楽しく取り組ませて

いきたい。

(4) 研究仮説との関わり

ア 選択学習(視点1)

練習の時間のプリントは、簡単なものから、少し難しいものへと内容を変えながら、終わった順にどんどん進めるようにしていく。

イ 指導と評価(視点3)

前時に難しいと感じていた児童や理解が不十分と思われる児童のようすをみながら、学習を進めていく。

### 3 単元の目標

(1) 単元の目標

1位数に1位数をたして繰り上がりのある計算のしかたを理解し、それを用いることができる。

〔関心・意欲・態度〕 数の構成や10の補数などの学習経験を生かして、1位数に1位数をたして繰り上がりのある計算のしかたを進んで考えようとする。

〔数学的な考え方〕 20までの数の構成や10の補数に着目して計算のしかたを考える。

〔表現・処理〕 1位数に1位数をたして繰り上がりのある計算ができる。

〔知識・理解〕 1位数に1位数をたして繰り上がりのある計算のしかたを理解する。

### 4 単元の評価規準

	概ね満足
関心・意欲・態度	10の合成・分解の学習を生かして、1位数に1位数をたして繰り上がりのある計算のしかたを進んで考えようとしている。 加法を用いて身の回りの問題を解決するなど、加法をすすんで用いようとしている。
数学的な考え方	繰り上がりのあるたし算のしかたについて、10のまとまりに着目して考えている。
表現・処理	繰り上がりのある1位数どうしの加法計算が正しくできる。
知識・理解	加数分解による計算のしかたを理解している。 被加数分解による計算のしかたを理解している。

5 指導計画（11時間）

小 単 元	時 目 標	評価規準と支援	単元の評 価規準と の関連
		概ね満足	
9 + 2 4 の け い さ ん	1 ・ 1 位数どうしの繰り上がり ・ のある加法で，被加数を分解 して計算する方法について理 解する。	・ 繰り上がりのあるたし算のしかたについて，1 0 のまとまりに着目して考えている。  ・ 加数分解による計算のしかたを理解している。	考  知 表 知
	3 ・ 1 位数どうしの繰り上がり ・ のある加法で，加数を分解し て計算する方法の理解を确实 にする。	・ 加数分解による計算が正しくできる。 ・ 被加数が 8，7 の場合でも，10 のまとまりを つくればよいことを理解している。	
3 + 2 9 の け い さ ん	1 ・ 1 位数どうしの繰り上がり ・ のある加法で，被加数を分解 して計算する方法について理 解する。  <b>本時 2 / 2 時</b>	・ 被加数分解のしかたを 10 のまとまりに着目し て考えることができる。  ・ 加数分解と被加数分解の方法を使い分けて計算 することが分かる。	考  知
か あ ど 2 れ ん し 3 ゆ う 4 ・ 5	・ たし算カードを使って，整 理していく中で，くり上がり のあるたし算のきまりを見つ ける。 ・ たし算カードを使ったゲー ムをする中でくり上がりのあ るたし算の習熟を図る。 ・ くり上がりのあるたし算の 計算を適用し，文章問題を解 く。 ・ さんすうゲーム大かいをし， 加法の計算能力を高める。 ・ くり上がりのあるたし算の まとめをする。	・ 加法を用いて身の回りの問題を解決するなど， 加法を進んで用いようとしている。 ・ 繰り上がりのある 1 位数どうしの加法計算が正 しくできる。	関  表

## 6 本時の指導（ 6 / 1 1 時間）

### （ 1 ） 目標

- ・ 繰り上がりのある加法計算で，被加数と加数の大きさに応じて加数分解と被加数分解の方法を使い分けて計算することを理解する。

### （ 2 ） 具体の評価規準

	十分満足	概ね満足	努力を要する児童への支援
知識・理解	・ 加数と被加数の大小に関係なく，問題に応じて，加数分解と被加数分解の方法を使い分けて計算することがわかる。	・ 加数分解と被加数分解の方法を使い分けて計算することがわかる。	・ ブロックケースで数を示し，あといくつで10になるか考えさせながら，10のまとまりを作らせる。

### （ 3 ） 授業研究の視点

視点1 本時では，練習の場面で，児童の学習の段階に合わせたプリントを用意し，力に応じて取り組めるようにする。

視点3 本時では，座席表を使い，担任とすこやかサポートとが前時の学習状況を見ながら，個別に支援をして歩く。自力解決の場面では，個別の指導を要する児童に対して，ブロックケースを示しながら，考えさせる。

### （ 4 ） 展開

	学 習 活 動	支援・留意点（ ）と評価（ ）
つかむ  10分	1 前時の学習を想起する。 2 問題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             せんせいがどんぐりを7こもっています。              ゆりこさんは8こもっています。              あわせて なんこになりましたか。           </div> ・ 立式する。 3 本時の課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             たしざんのめいじんになろう           </div>	3 + 9 の計算で，3 を分けて10のまとまりを作って解いたことを確かめる。（9 + 4の加数分解，3 + 9の被加数分解の紙板書をはる。）  わかっていること，聞いていることに印を付ける。  2つの数の大きさが近いことに気づかせる。
深める	4 自力解決をする。 ・ 7 + 8    ・ 7 + 8  5 自分の考えを発表しあう。	解決できないでいる児童には，サポート教諭がブロックケースを持ち，あといくつで10になるか考えさせる。  加数分解と被加数分解の2つの方法でやってみるように，呼びかける。  どちらの方法で計算したか，確かめる。

20分	6 適用問題をする。 計算しやすい方はどちらか。 $4 + 8$ , $8 + 3$ , $5 + 8$	加数分解をする時と、被加数分解する時、どちらでもよい時はどんな時かを考えさせ、計算の仕方を3つの形に分ける。
まとめる  15分	7 まとめる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">           10のまとまりをつくってけいさんする。         </div> 8 練習問題を解く。  9 本時の学習を振り返る。 ・繰り上がりのある足し算の仕方がわかったか。 ・がんばって勉強したか。(ノート)	被加数か加数のどちらを10にしたかわかるように、さくらんぼ計算させるプリント、練習プリントを準備しておく。 加数分解と被加数分解の方法を使い分けて計算している。